

報道記者各位

2026 年 8 月 3 日

テスホールディングス株式会社

インドネシア Kuala Tanjung に新たなストックパイルを開設、 同拠点から佐賀伊万里バイオマス発電所向けに PKS 燃料を初出荷

テスホールディングス株式会社（本社：大阪市淀川区、代表取締役社長：山本 一樹、以下「当社」）は、当社の連結子会社である PT INTERNATIONAL GREEN ENERGY（本社：インドネシア、以下「IGE 社」）が、インドネシア 北スマトラ州に位置する Kuala Tanjung（クアラ タンジュン）にストックパイル（出荷拠点）を新たに設け、同拠点から当社の連結グループである佐賀伊万里バイオマス発電所向けに PKS^{※1} 燃料を初出荷いたしましたのでお知らせいたします。



初出荷の様子



Kuala Tanjung ストックパイル

■ Kuala Tanjung に新たなストックパイルを開設、EFB ペレット製造事業とのシナジーを創出

当社グループでは、2020 年より IGE 社において PKS 燃料を調達し、日本国内のバイオマス発電所に向けた PKS 燃料販売事業を展開しております。これまで、インドネシア国内のストックパイルから 2026 年 7 月末時点で累計約 76 万 t の PKS 燃料を出荷してまいりました。

この度、Kuala Tanjung に新たなストックパイルを開設し、2026 年 7 月 27 日（日本時間）、同拠点から当社グループの佐賀伊万里バイオマス発電所向けに PKS 燃料を初出荷いたしました。

また、Kuala Tanjung が位置する北スマトラ州には、当社グループのパートナーであるインドネシア国营パーム農園企業の PTPN グループがパーム産業の主要拠点として開発・運営を進めるセイマンケイ工業団地があり、パーム産業に関するインフラが充実しております。当社グループにおいても、同工業団地内で農作物残渣由来のバイオマス燃料である「EFB^{※2}ペレット」製造事業^{※3}を展開しており、PKS 燃料事業とのシナジー創出が期待されます。今後、PKS 燃料と EFB ペレットの両サプライチェーンを一体的に構築し、燃料供給体制の更なる強化と安定供給の実現を目指してまいります。



インドネシアにおける当社グループの事業拠点

■今後の展望

当社グループが 2024 年 8 月に策定・公表した中期経営計画「TX2030」では、「資源循環型バイオマス燃料事業」を注力事業分野の 1 つと位置付けており、EFB や PKS 等のパーム産業における農作物残渣の活用によりサーキュラーエコノミーの推進とストックビジネスの拡大を目指しております。

PKS 燃料については、2028 年 6 月期には PKS 燃料供給量 40 万 t/年（自社グループ向け：20 万 t/年、外部向け：20 万 t/年）を目指すこととしております。

今後も当社グループは、中期経営計画の達成を目指すと共に、IGE 社における PKS 燃料販売事業を通して、世界的なカーボンニュートラルの実現に貢献してまいります。

※¹PKS (Palm Kernel Shell)：

パーム椰子の種からパーム油を搾油した後に残った椰子殻のこと。

※²EFB (Empty Fruit Bunch)：

アブラヤシからパーム油を搾油する際の副産物（残渣）である椰子空果房のこと。

※³インドネシアにて EFB ペレット製造の実証を行う工場が完工、竣工式を実施いたしました
(2026 年 7 月 6 日公表)

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2847983/00.pdf>

■本件に関するお問い合わせ先

テスホールディングス株式会社 広報 IR・予算チーム

<https://www.tess-hd.co.jp/contact/>

※当社グループは、テレワーク・時差出勤を取り入れております。

そのため、お電話での対応ができない場合がございますので、ホームページよりお問い合わせください。
ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。